教学入門（6）信行学

信行学　どれが欠けても正しい仏道修行にはならない。

一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ、

あひかまへて・あひかまへて・信心つよく 候 て三仏の守護をかうむらせ給うべし、

行学の二道をはげみ 候 べし、行学たへなば仏法はあるべからず、我もいたし人をも教化 候 へ、

行学は信心よりをこるべく 候 、力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし

① 信　（　日蓮大聖人の仏法を信じて受け入れること　）

「以信得入」仏の境涯に入るための唯一の道。此の経に於いては信を以って入ることを得たり

② 行　（　御本尊を信受した具体的な実践　）

「自行」「化他」の両面があり、どちらが欠けても仏道修行は完成しない。

自行　＝　自分が法の功徳を得るために修行すること。【勤行】

化他　＝　他人に功徳を受けさせるために仏法を教える実践。【弘教。広宣流布の実践活動】

末法に入て今日蓮が 唱 る所の題目は前代に異り自行化他に亘りて南無妙法蓮華経なり

★生命変革の実践　勤行と弘教

勤行　：　御本尊に向かって読経・唱題すること。生命変革の具体的な実践の一つ。

深く信心を発して日夜朝暮に又 懈 らず磨くべし何様にしてか磨くべき

只南無妙法蓮華経と唱えたてまつるを是をみがくとは云うなり

弘教　：　仏の使いとして、仏の振る舞いを実践する最も尊い行為である。

「我もいたし人をも教化候へ　：　力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし」

「かかる者の弟子旦那とならん人人は宿 縁 ふかしと思うて日蓮と同じく法華経を弘むべし」

③　学　（　御書を根本にして正しい仏法の法理を学ぶ　）

御書が根本である。

教学の研さんがないと自分勝手な理解に陥る、誤った教えを説く者に騙されてしまう。

正しい仏法の法理を学ぶことによって、より深く完全な信に立つことができる。正しい行を行なうことができる。